



# NIIT

vol.25

新潟工科大学  
広報誌

2010.12.31

## 原子力耐震・構造研究センター、原子力耐震安全シンポジウム

※ 原子力耐震・構造研究センター、原子力耐震安全シンポジウムに関する記事は2ページに掲載



## CONTENTS

### NIIT news

- P.2** ・原子力耐震・構造研究センター竣工、原子力耐震安全シンポジウム開催  
・文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に採択
- P.3** ・ロボカップレスキューロボットリーグキャンプ2010を開催  
・Hondaエコマイレージチャレンジ2010全国大会に出場  
・新潟県コンクリート診断士会会長に選出
- P.4** ・教員表彰  
・学生が各賞を受賞  
・平成22年度公開講座の全日程終了

### 告知・イベント情報

- P.5** ・入学試験情報  
～ 一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験 ～

### Voice of OB・OG

- P.6** ・株式会社リケンキャストック 浅見 直史さん

### 研究室訪問

- P.7** ・材料強度研究室

### 部活・サークルFile

- P.8** ・スポーツシューティング同好会

## 原子力耐震・構造研究センター竣工、原子力耐震安全シンポジウム開催

11月24日(水)に本学構内に設置された原子力耐震・構造研究センターの竣工式が行われました。

主催者として本学から内田力理事長、布村成員学長、原子力安全基盤機構から曾我部捷洋理事長、東京電力から武藤栄取締役副社長が出席し、来賓として森邦雄新潟県副知事、会田洋柏崎市長、IAEAのデニス・フローリー次長ほかからご臨席いただきました。

同研究センターは、3次元床免震装置や3次元映像を映写できる高精度370インチ大型映像装置をはじめとした原子力の耐震安全に係る最新研究設備を備えています。主な研究課題は、①地震動の影響評価、②地震裕度の定量的評価、③経年劣化を考慮した耐震性評価、④分かりやすい情報伝達システム開発などで、本学では機械制御システム工学科の門松晃司教授と山崎泰広教授、情報電子工学科の佐藤栄一准教授が研究を担当します。また、本学学生もこれら先端研究に携わっていきます。他では得られない貴重な体験となるでしょう。

同研究センターの竣工に併せ、同日の午後から26日(金)まで、「柏崎で得られた知見とその反映」をテーマに柏崎国際原子力耐震安全シンポジウム(主催:JNES・IAEA、協賛:NIIT、TEPCO、経済産業省原子力安全・保安院 他)が行われました。



▲竣工式



▲レセプション



▲柏崎国際原子力耐震安全シンポジウム

海外28か国、約600人の関係者が集い、4つのセッションと2つのワークショップが実施されました。地震情報伝達システムのセッションでは、情報電子工学科4年の堀辰弥さん(新潟県立柏崎工業高等学校出身)がパネリストとして参加し、積極的に意見を述べました。また、24日(水)の夕方には柏崎市民プラザにおいて、盛大なレセプションが催され、世界各国の研究者が情報交換を兼ねた懇談を行いました。

さらに、このシンポジウム開催を記念して、25日(木)に原子力耐震安全市民公開講座(主催:本学)が行われました。講師には原子力及び耐震研究の著名な専門家であるアントニオ・ゴドイ氏(前IAEA国際原子力機関 ISSC国際耐震センター長代行、現IAEA顧問)、アニー・カマラー氏(米国原子力規制委員会、地盤・地震工学博士、プロフェッショナルエンジニア)、アーメット・ヤルシナー氏(トルコ中東技術大学土木工学教授、同大学海洋工学研究センター長)の3氏をお招きし、一般市民他180人が熱心に聴講しました。



▲市民公開講座

### 【関連URL】

[http://www.niit.ac.jp/news/2010/11/post\\_328.html](http://www.niit.ac.jp/news/2010/11/post_328.html)

## 文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に採択

文部科学省の平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」に本学の「実践型カリキュラムによる職業人育成事業」が採択されました。全国から441件の申請があり、そのうち180大学が採択され、新潟県内の私立大学において単独での採択は本学のみでした。

この取組は、社会で技術者として就業するために必要な専門力とNIIT人間力(※)を育成するため、専門教育、教養教育、職業教育を体系的に行う、キャリア教育トータルシステムを確立する取組です。キャリア教育トータルシステムの確立にあたっては、本学のコアコンピタンスでもある産学連携を最大限に発揮することにより、他大学にない実践的なシステムを構築することができ、就業力の育成に大きく寄与します。

※NIIT人間力とは「創造力」、「挑戦力」、「コミュニケーション力」で構成される、本学の育成する力。

### 【取組内容】

1. キャリア教育トータルシステムの確立にあたり、入学から卒業まで、体系的なカリキュラムとシステムを構築する。
2. 企業の実務家と連携(産学連携)し、実践型カリキュラムを開発する。
3. キャリア教育トータルシステムの確立にあたり、既存科目の実施方法・内容の見直し、また廃止科目を検討する。(以上の1~3によりカリキュラム改革に取組む)

4. キャリア教育トータルシステムの取組に伴い、入学から卒業までの自己の成長を実感させるためにNIIT人間力の自己評価を行う。
5. 入学から卒業までの大学における取組を学生に認識させると共に、体系的な学生指導を可能とするためのキャリアポートフォリオシステムを開発・導入する。
6. 卒業生のNIIT人間力や学士力形成の調査を企業に対して行い、調査結果を分析し、実践型カリキュラムに反映させる。
7. 企業人による外部評価委員会を組織し、事業全体のPDC Aサイクルを回して行く。

### 【就業力育成事業に係る科目(イメージ)】

区分	1年次	2年次	3年次	4年次
キャリア科目(理論)	キャリアデザイン	キャリア基礎	キャリア演習	
実践科目(実践)	1DAYインターンシップ	プレリミナリィインターンシップ	アドバンスインターンシップ	卒業研究
	基礎ゼミ	PBL実習		
企業研究	企業研究Ⅰ(企業見学)	企業研究Ⅱ(業界研究)	企業研究Ⅲ(実務家講義)	

### 【関連URL】

[http://www.niit.ac.jp/news/2010/10/\\_html](http://www.niit.ac.jp/news/2010/10/_html)

## ロボカップレスキューロボットリーグキャンプ2010を開催



9月19日(日)、20日(月・祝)の2日間、本学を会場に「レスキューロボットリーグキャンプ2010」が開催されました。

このイベントは、ロボカップレスキューロボットリーグに参加するチームの研究者や学生間の情報交換や、一般の方々にも日頃の研究活動を知っていただくことを目的に開催されました。

今回は、本学を含め4大学が参加し、デモンストレーションや模擬競技などを通じて技術交流が行われたほか、千葉工業大学の小柳教授、長岡技術科学大学の木村准教授による講演会、小学生向けのロボット工作体験や操縦体験も行われました。

【ロボカップレスキューロボットリーグとは】  
災害現場を模したフィールドで、ロボットが災害救助活動のスピードと精度を競い合う競技です。遠隔操作/自律ロボットで与えられた時間内でフィールド内を探索します。同時に、救助に役立つ地図も作成します。時間内でたくさんの要救助者を発見し、かつその情報の精度が高いほど高得点となります。ただしロボットが二次災害を引き起こす可能性のある行動(壁・要救助者にぶつかる等)をした場合は減点となります。

### 【ロボカップレスキューロボットリーグとは】

災害現場を模したフィールドで、ロボットが災害救助活動のスピードと精度を競い合う競技です。遠隔操作/自律ロボットで与えられた時間内でフィールド内を探索します。同時に、救助に役立つ地図も作成します。時間内でたくさんの要救助者を発見し、かつその情報の精度が高いほど高得点となります。ただしロボットが二次災害を引き起こす可能性のある行動(壁・要救助者にぶつかる等)をした場合は減点となります。

今年の本大会は5月に大阪工業大学を会場に、開催されました。

今年の本大会は5月に大阪工業大学を会場に、開催されました。



【関連URL】

[http://www.niit.ac.jp/news/2010/09/post\\_310.html](http://www.niit.ac.jp/news/2010/09/post_310.html)

## Hondaエコマイレージチャレンジ2010全国大会に出場

10月9日(土)、10日(日)に栃木県のツインリンクもてぎで行われた「Hondaエコマイレージチャレンジ2010 本田宗一郎杯 第30回全国大会」のグループⅢ(大学・短大・高専・専門学校)に自動車競技同好会が3年連続で出場しました。

同大会は、各チームの自作車両にホンダ製の50cc4ストロークエンジンを基に改良したエンジンを搭載し、燃費を競う競技です。230ccのガソリンを積んで、1周2.4kmのオーバルコースを7周後、残っている燃料の量を計測し、走行前の燃料の量と比較し、1ℓあたりの走行距離を算出します。なお、走行時の平均速度は、25km/hでなくてはなりません。タイヤの数に制限はありませんが、走行抵抗が少なく、車両安定性のある3輪が主流となっています。同同好会も3輪で大会に臨みました。

同同好会チームは、クランクケースの軽量・小型化、クラッチの強化(滑り防止)、オイルリングの取り外し(摩擦抵抗軽減)、後輪軸のワンウェイクラッチ化(停止時の駆動抵抗軽減)、タイヤの16インチ(小型)化、ブレーキの強化、発電機の取り外し(回転抵抗軽減)など、昨年の大会から改良を加えました。

結果は、燃費215.99km/ℓと自己ベストの更新はならず、順位も100チーム中50位でした。来年は、鈴鹿大会への参加も考えており、500km/ℓを目指し、改良を進めていきます。



## 新潟県コンクリート診断士会会長に選出

建築学科の地濃茂雄教授が、会員100名、法人等12団体を擁する新潟県コンクリート診断士会の会長に選出されました。

同会は、コンクリート診断士資格を有する者の学際的な集まりとして、コンクリート構造物の維持管理に関する最新技術の保有・活用の観点から、診断士制度の組織的な活動を通して社会貢献することを目的としています。

同教授は、総会で「コンクリートがあるからこそ社会資本整備は進み、我々の安全で豊かな暮らしが守られる。そうした認識を共有し、コンクリートという一つの切り口から、故郷新潟

の発展のために活動を進めたい」と述べ、会員の一致結束を呼びかけました。

なお、同教授は、日本建築学会賞、日本建築工学会賞、日本コンクリート工学協会賞を受賞するなど、コンクリート工学を専門とし、新潟県生コンクリート監査会議副議長、新潟県建設技術センター理事、新潟県住宅センター理事、新潟県建築士事務所協会顧問等を務めています。

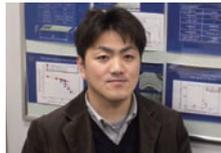


## 教員表彰

### 【Best Paper Award受賞】

機械制御システム工学科の山崎泰広教授が、「7th China-Japan Bilateral Symposium on High Temperature Strength of Materials」(第7回日中高温強度シンポジウム)において、内容・講演方法ともに特に優秀と認められ「Best Paper Award」を受賞しました。

受賞論文タイトルは、「Evaluation Interfacial Strength by an Instrumented Indentation Method and Its Application to an Actual TBC Vane」でこの研究は、ガスタービンの遮熱コーティングについて界面強度の評価方法を開発・提案し、実際にこの手法を用いて評価を行ったものです。



### 【関連URL】

[http://www.niit.ac.jp/news/2010/09/best\\_paper\\_award.html](http://www.niit.ac.jp/news/2010/09/best_paper_award.html)

### 【新潟県聖籠町から表彰】

建築学科の地濃茂雄教授が、11月3日(水)に新潟県北蒲原郡聖籠町の文化の日記念式典において、産業、教育、文化、防災、環境保全事業等に尽力し、その功績が顕著な者として、表彰されました。

同教授は、同町の第3次総合計画審議会会長、行政改革推進委員会委員長、図書館建設調査委員会副委員長などを歴任し、現在は第4次総合計画審議会会長、入札監視委員会委員長として、助力しています。

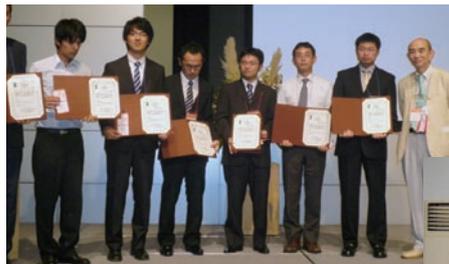
なお、同教授の地域貢献は、同町に限らず、これまでに新潟放送、柏崎商工会議所などからも表彰されたほか、新潟日報文化賞も受賞しています。



## 学生が各賞を受賞

本学大学院自然・社会環境システム工学専攻2年の小山和也さん(本学情報電子工学科出身)が、9月5日(日)に開催された第34回日本磁気学会学術講演会で「学生講演賞(桜井講演賞)」を受賞しました。

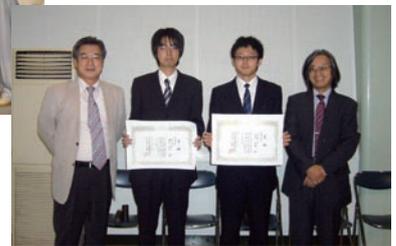
この賞は、2009年の第33回日本磁気学会学術講演会の講演が評価され、受賞したもので、講演内容は「記録ヘッドのマイクロマグネティックシュミレーションの高速化」でした。



▲学生講演賞の小山さん(右から2番目)

また、同1年の木戸亮一さん(本学情報電子工学科出身)と同2年の小嶋貴明さん(本学情報電子工学科出身)が、10月2日(土)に電子情報通信学会信越支部大会において、学生奨励賞を受賞しました。

木戸さんは、「伝送遅延補償制御における遅延時間最少化方式の検討」、小嶋さんは、「並列分散システムにおけるデータ配信アルゴリズムのステップ数について」と題してそれぞれ発表を行い、その研究成果が優れていると評価されました。



▲学生奨励賞の木戸さん(左から2番目)と小嶋さん(同3番目)

### 【関連URL】

[http://www.niit.ac.jp/news/2010/09/post\\_301.html](http://www.niit.ac.jp/news/2010/09/post_301.html)

[http://www.niit.ac.jp/news/2010/10/post\\_317.html](http://www.niit.ac.jp/news/2010/10/post_317.html)

## 平成22年度公開講座の全日程終了

11月25日(木)に公開講座in上越(全5回)が終了し、今年度の公開講座全日程が終了しました。

今年度は、教養講座「中学生サッカーステップアップ講座」(8月2日(月)~6日(金)・全5回)、技術講座実験編「作って理解!赤外線リモコン」(9月2日(木)~30日(木)・全4回)と、新たな試みとして、上越市での出張公開講座「快適で安全な地域の住まいづくり」(10月28日(木)~11月25日(木)・全5回)の3テーマを実施し、約120名の方から受講していただきました。

次年度以降も皆さまにより興味を持っていただけるようなテーマを取り上げていきますので、多数のご来場をお待ちしております。

### 【関連URL】

<http://www.niit.ac.jp/general/release/release.html>



# 告知・イベント情報

## 入学試験情報 ～一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験～

以下のとおり、一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験を実施します。本試験区分では、数学・理科の素養を筆記試験の点数により評価します。また、諸外国の技術の修得や外国人技術者との交流に必要な英語を試験教科として設定しています。

### 1. 選抜方法

#### ■一般入学試験

##### (1) 前期A日程

2教科筆記試験(数学必須、物理・化学・生物・英語から1科目選択)及び出願書類を総合して選抜します。

区分	教科	選択	科目(出題方法等)	配点(時間)
必須	数学	選択1	「数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B(統計とコンピュータ、数値計算とコンピュータを除く)」	100点 (90分)
		選択2	「数学Ⅰ、数学Ⅱ」 ※選択2は普通科以外の学科を卒業した者(又は卒業見込みの者)に限り選択できます。	
選択	理科 外国語		下記の4科目から1科目選択 「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」、「英語(英語Ⅰ、英語Ⅱ)」	70点 (60分)

##### (2) 前期B日程

1教科筆記試験(数学、物理、化学、生物から1科目選択)及び出願書類を総合して選抜します。

教科	科目(出題方法等)	配点(時間)
数学 理科	下記の4科目から1科目選択 「数学(数学Ⅰ、数学Ⅱ)」、「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」	100点 (60分)

##### (3) 後期

面接、口頭試問及び出願書類を総合して選抜します。

試験方法	科目(出題方法等)	配点(時間)
面接試験 (口頭試問含む)	面接は、志望動機、将来計画等について質問します。 口頭試問は、「数学(数学Ⅰ、数学Ⅱの基礎的事項)」、「英語(英語Ⅰ、英語Ⅱの基礎的事項)」について 試問します。	面接60点 試問40点 (15分)

#### ■大学入試センター試験利用入学試験

大学入試センター試験の結果(2教科・2科目)及び出願書類を総合して選抜します。なお、本学独自の2次試験(個別試験)は実施しません。

区分	教科	受験を要する科目	配点(時間)
必須	数学	下記6科目から1科目選択 「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅱ・数学B」、「工業数理基礎」、「情報関連基礎」	100点
選択	理科 外国語	下記6科目から1科目選択 「理科総合A」、「理科総合B」、「物理Ⅰ」、「生物Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「英語(リスニングを含む)」	100点 ※外国語は250点を 100点に換算

※ 必須及び選択科目ともに2科目以上受験した場合は、最高得点の1科目を採用

### 2. 選抜日程

#### ■一般入学試験

##### (1) 前期A日程

- ・ 出願期間：1月3日(月)～1月21日(金)
- ・ 試験日：2月3日(木)
- ・ 合格発表：2月9日(水)

##### (2) 前期B日程

- ・ 出願期間：2月 1日(火)～2月10日(木)
- ・ 試験日：2月18日(金)
- ・ 合格発表：2月25日(金)

##### (3) 後期

- ・ 出願期間：2月21日(月)～3月4日(金)
- ・ 試験日：3月10日(木)
- ・ 合格発表：3月11日(金)

#### ■大学入試センター試験利用入学試験

##### (1) A日程

- ・ 出願期間：1月17日(月)～1月31日(月)
- ・ 合格発表：2月9日(水)

##### (2) B日程

- ・ 出願期間：2月21日(月)～3月4日(金)
- ・ 合格発表：3月11日(金)

### 3. その他

一般前期A日程入学試験、大学入試センター試験利用A日程入学試験において、成績優秀者に対し年間授業料の半額(44万円)を最長で卒業までの4年間免除する特待生選抜を実施します。

※ 入学試験の詳細については本学ホームページ、募集要項でご確認ください。



## Graduate Interview

## vol. 16

株式会社リケンキャストック

## 浅見 直史さん

機械制御システム工学科 2006年3月卒業



今回は、新潟県柏崎市にある“株式会社リケンキャストック”に勤務されている浅見直史さんにお話を伺いました。

レポーター： お忙しい中、時間を取ってくださりありがとうございます。まずは、会社についてご紹介いただけますか？

浅見： 弊社は、自動車、自動二輪車、船舶等に載っているエンジンのカムシャフトを製造している会社です。国内メーカーに限らず、海外メーカーのカムシャフトも生産しています。

レポーター： 浅見さんは、現在、どんな業務を担当されているのですか？

浅見： 主に品質、生産性等の改善を担当していますが、それ以外にもいろいろな業務を担当しています。強いて言えば、雑用係みたいなことを担当しています(笑)。

レポーター： 若いうちは、いろいろと経験しないとイケませんからね。品質、生産性等の改善について、もう少し詳しく教えていただけますか？

浅見： 分かり易く言うと、製品の不良対応と予防です。不良品を解析して、対応したり、以前に起こった不良事象をもとに新規品にフィードバックして、予防等を行っています。

レポーター： 原因を究明して、製品に反映している訳ですね。業務は多忙かと思いますが、業務の中で特に大変だと思うことを教えてください。

浅見： 信頼関係をいかに向上させるかですね。縦の繋がりでなく、横の繋がりが非常に重要で、信頼関係を築くのが大変でした。他には、机の上が綺麗にできないことですかね(笑)。机の上を掃除しても、3日とその状態が維持されません。

レポーター： 後者の方は、私も思い当たる節が…。業務の中で、やりがいを感じる点はどこですか？

浅見： 私の業務の結果は、月々、良品率の数値となって表れるのですが、自分の発案で対応を進め、期待通りの成果が得られて、前月より良品率が上がった時などは、非常にやりがいを感じますね。

レポーター： ところで、どうしてリケンキャストックに入社したのですか？

浅見： 大学3年の時に大学で行われた合同会社説明会で興味を持って、担当者から詳しく話を聞いたからです。

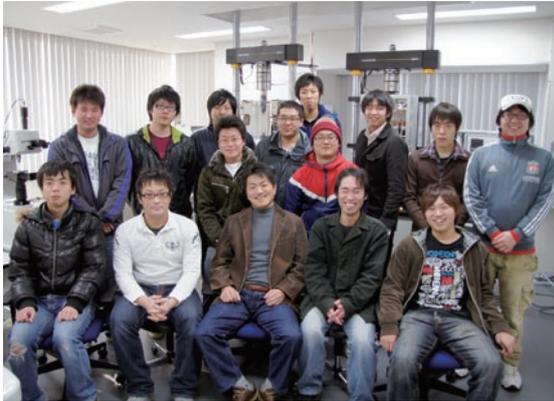
レポーター： 合同会社説明会が縁で、就職された訳ですね。大学としても、合同会社説明会を開催した甲斐がありますね。話は変わりますが、学生時代で思い出に残っていることはありますか？

浅見： 講義、卒業研究、研究室の飲み会などいろいろありますが、4年間続けたアルバイトですかね。ゴルフ練習場でアルバイトをしていて、多くの人に出会い、多くのことを学びました。そこで、ゴルフまで教えてもらいました。社会人になって、コンペに出て、やっぱりゴルフは覚えていて損はないと思いました。

レポーター： 私もゴルフを始めた方がいいですかね。それでは、最後になりますが、一言お願いします。

浅見： 卒業研究の指導教員だった山崎教授には、大変お世話になりました。機会があれば、お酒でも飲みましょう。

レポーター： 山崎教授に伝えておきます。貴重なお話、ありがとうございました。



### ■ 研究室概要

私たちの社会を支える便利な機器において、何よりも重要なことは「安心」と「安全」です。機器は私たちの生活を豊かにするためにあるものであり、機器の破壊事故により人々が災難を被ることは論外です。しかし、形あるものは壊れるのが必然であり、機器が壊れることは避けられません。材料強度研究とは機器を安心・安全に使用するために機器の「破壊を把握し、予測し、制御する」ことを目指す研究です。

私たちの「材料強度研究室」も「破壊を把握し、予測し、制御する」ことを目指し、先進ガスタービンや原子炉構造材料、コーティングなどを対象として、日々、地道に研究を行っています。それらの研究のほとんどが企業との共同研究で、共同研究を行っている企業は、機器を開発・製造する重工メーカーや地域の中小企業から電力会社などのユーザー企業まで多岐に渡っています。

企業との共同研究が多いことはニーズが多いことを意味しています。しかし、最近、企業の方々から材料強度学の知識を持った若い研究者が不足していると指摘を受けます。私たちの「材料強度研究室」を卒業した学生が社会のニーズに応え、現代社会の「安心・安全」を支える技術者として活躍してくれるものと信じています。



### 《学生のホンネ》

機械制御システム工学科4年

村田 友輝

(新潟県立佐渡高等学校出身)

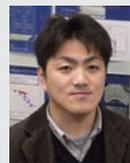
私は、大学に入学してから3年間、勉強に取り組んでもなかなか達成感を感じることができませんでした。そこで、最後の1年くらいは何かをやり遂げようと思い、卒業研究の研究室として、山崎教授が研究指導を行っている材料強度研究室を選びました。

卒業研究のテーマとして「耐熱サイクル基準による機能コーティングの施工プロセス最適化」に取り組んでいます。フライパンや鍋といった電磁調理器では空焼きによるコーティングの剥離が問題となっており、本研究ではそういったコーティングの長寿命化を図るために材質や厚さなどでそれぞれの耐久性を比較し、最も優れたコーティングを探し出すことを目的としています。また、本研究は、新潟メタリコン工業株式会社様との共同研究として、試材を提供して頂いて研究を行っています。なお、余談になりますが、私は同社から内定を頂いております。

本研究は、私自身のため、入社する会社のためと思いい、日々実験を行っています。時間や手間をかけて実験したものが、失敗や、やり直しになるととても辛いです。また、同じ作業を何度も反復したりすることが多く、結構大変です。しかし、大変な分、実験が上手くいくととても嬉しいです。元々、機械を動かすのが好きですし、研究を通して様々な知識が身に付くのは、自分のためにもなるので、材料強度研究室を選んで良かったと思っています。

また、材料強度研究室は、学生同士仲が良く、研究の合間にゲームをしたり、各自持ってきたお勧めの本を読みあたりしています。晴れた日には、外で野球をしたり、定期的に飲み会を開いたりして、日頃のストレスを発散しています。

最後になりますが、山崎教授、卒業まで残り短い期間ですが、ご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。



### 山崎教授から 学生に向けて一言

実験を主体にして現象をとらえて、そのメカニズムを解明する研究においては、「なに」が「なぜ」起きているのか、いつも考えていることが重要です。これは、卒業研究のみならず、企業で設計・製造・開発する際にも重要なことだと思います。どんな些細なことでも、「なに」が起きていて、「なぜ」起こったのかを考えられる技術者になってほしいと願っています。

# 部活・サークル File

vol. 3

## スポーツシューティング 同好会

同好会長：西方 優太【情報電子工学科3年】

会員：11名

(1年生：1名、2年生：0名、3年生：10名、4年生：0名)

スポーツシューティングとは、エアソフトガンを使用して標的射撃等をするスポーツです。私達メンバーは、「気軽に楽しく」をモットーに活動しています。活動は主に、木曜日の16時20分から体育館脇の多目的広場で行っています。活動の基本は、プリンキング(競技上の勝敗得点に関わらず、単純に遊びに近い感覚で、標的射撃を楽しむスタイル)が主体で、強制的な練習メニューは存在しません。ただし、エアソフトガンを安全に扱う上での最低限の技術指導や安全講習などは入会時から徹底して行っています。



スポーツシューティングは、正式な試合形式の競技ではありませんが、遠方の的を狙い撃つ射撃には、適度な集中力と反射神経が要求され、金属製のスチールターゲットに命中させると大きな金属音が鳴り、集中力向上に加え、ストレス発散効果も期待できます。また、アーチェリーなどの静的なスタイルとは異なり、複数の的を配置したコースを移動しながら射撃を行う動的なスタイルも取り入れ、コースクリアタイムを競い合う



ので、タイム短縮など練度向上にともなう達成感が大きいです。

また、本同好会は、勝ち負けを競って切磋琢磨したり、強制的な練習メニューがある訳ではないので、辛いとかいうことはありませんが、強いて言えば、野外活動という環境面がデメリットで、「活動場所(多目的広場)が草地のため、蚊に刺されるので虫よけ必須」、「気温が20℃以下になるとガスガンのガスが気化しにくく、ほぼ使用できなくなるので、冬は完全にオフシーズン」などの問題があります。

現在、現3年生を除くと、1年生1名しかおらず、再来年には存続の危機にあり、新規メンバーを随時募集(特に1~2年生)しています。性別、経験不問、初心者大歓迎ですので、興味のある方は、活動時に声をかけてもらう(活動場所：体育館脇多目的広場)か、[ojiya@zpost.plala.or.jp]にタイトルを「サークル入会希望」として、本文に学籍番号、氏名を明記のうえ、メールを送信してください。皆さんの入会、心よりお待ちしております。

